

## 研究主題

# ボランティア活動等社会奉仕体験活動の促進に関する研究

### 《抄 録》

本研究は、ボランティア活動等社会奉仕体験活動に取り組む都内の先進的な学校事例の分析から、そこに共通して見られる特徴を整理し、学習活動の展開過程をモデル化した。さらに、この展開モデルに従って、具体的な方法を織り込んだ小学校および中学校段階の展開例を構想し、促進のための方策を提示した。

研究の結果、まず、都内の先進的な事例に共通して見られる特徴として、次の6点が明らかとなった。人との出会いやかかわりを活動のねらいとして重視していること 人間への深い理解を伴った思いやりが児童・生徒にはぐくまれていること 「計画」「体験」「振り返り」といった一連の過程を何度も繰り返し、「振り返り」のための様々な工夫が用意されていること 教師と児童・生徒との間で、課題が切実感をもって意欲的に取り組めるか、人や地域に喜ばれ、学ぶ楽しさや成就感・達成感が得られるかなどの視点から常に確認がなされていること 保護者・地域・関係諸機関が、活動の全過程を通してかかわる工夫がなされていること 専門の校務分掌が設置されているなど全校で取り組む体制ができていること。

次に、学習活動の展開過程は、「ガイダンス」「第1次探究活動」「中間報告会」「第2次探究活動」「まとめ」の5段階としてモデル化できることが分かった。

この展開モデルに従い構想した小学校の展開例では、総合的な学習の時間を活用して、第1学年から第6学年までの学校全体を見通した学習活動計画を作成した。そこでは、学習過程での「振り返り」を重視し、活動を充実させるさまざまな工夫や、児童の深い思いやりを引き出す教師の具体的支援方策を示した。中学校の展開例では、生徒が多様な分野の活動と出会うために「テーマ学習」を工夫することや「中間報告会」を効果的に行うための具体的な方策を示した。さらに、活動を通して学んだことや得意なことを生かし、自分にできる、人の役に立つ（喜ばれる）活動を継続・発展させていくための工夫について言及した。